



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。」(エレミヤ 31:3~4)



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 TEL:090-8729-0856
- メール：eternalloveisrael@gmail.com ●ホームページ：<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座：三菱東京 UFJ 銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表：宮本 純子（聖契神学校卒業、WMTC 世界宣教研修センター卒業）

☆ロシュ・ハシャナ(ユダヤ新年)5783年☆



ハレルヤ！主の聖名を心から賛美いたします。

いつもエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにお祈りと尊い献金で支えてくださり心から感謝いたします。

今年は、9月25日の日没にロシュ・ハシャナ(ユダヤ新年)5783年を迎えました。ユダヤ暦は、西暦に3760年を足した年数にほぼ等しいですが、これはラビたちが 聖書に基づいて天地創造から計算したという年数を採用したものです。ユダヤ暦の新年は、ティシュレ月(第7の月)1日から2日間お祝いします。



私は、ハバッドジャパン主催の新年会(会場:東京アメリカンクラブ)に出席しました。コロナ禍なので感染対策を万全にし、感染予防に努めながら、大勢のユダヤ人と共に新年をお祝いしました。ロシュ・ハシャナ(ユダヤ新年)には特別な意味のある食物があります。林檎をハチミツに浸して食べるのには、林檎のように丸くてハチミツのように甘い年となるように、という意味があります。他にも人参、長ネギ、赤カブ、ナツメヤシの実、カボチャ、ザクロ、魚料理を食します。

ロシュ・ハシャナは、ラツパの祭りでもあります。ラツパ、つまり角笛(ショーファー)を吹き鳴らします。テキヤ、テルア、シェバリーム、などといった独特の吹き方をします。ハバッドジャパンでは、9月26日の新年礼拝で、角笛を吹き鳴らしました。

5783年が、林檎のように丸くてハチミツのように甘い年となりますように。ユダヤ民族と皆さまの上に神様の素晴らしい祝福が益々満ち溢れますように心からお祈り申し上げます。シャナートバー(良いお年を)

☆ヨム・キプル(贖罪の日) ☆



(ハバッドジャパンのヨム・キプル)

去る10月4日から5日までヨム・キプル(贖罪の日)でした。

レビ記16章に規定されるユダヤ教の祭日で、ユダヤ教における最大の休日の1つです。ユダヤ暦でティシュレ月(第七の月)の10日、第七の月の1日のロシュ・ハシャナからヨム・キプルまでの10日間はヤミム・ノライム(畏れの日々)と呼ばれ、暦の上で特別な日々と考えられています。罪の贖いと救いを祈り、メシアの到来を待ち望みます。そして「いのちの書に名前が記されますように。」と、挨拶を交わしました。

☆スコット仮庵の祭り☆



去る10月9日の日没から16日の日没まで仮庵の祭りをお祝いしました。仮庵の祭り(スコット)は、過越祭(ペサハ)と七週の祭り(シャブオット)とともにユダヤ教三大祭の一つです。スコットとはヘブライ語で「仮庵」のことです。ユダヤ暦ティシュレ月(9~10月)の15日から1週間、ナツメヤシの葉や柳などの茂り合った木の枝で仮小屋を庭やベランダに建て、収穫祭でもあるので、秋の収穫物を天井から下げ、遠い昔エジプトを脱出した後カナン肥沃地に入るまでの40年間、シナイやネゲブの荒野を彷徨した先祖の苦労を思いつつ、スッカー(仮小屋)の中で過ごします。仮庵の祭りは、千年王国を予表しています。艱難時代の後、キリストが統治される千年王国の時、全世界の人々がエルサレムで仮庵の祭りを祝う預言が示されています。(ゼカリヤ 14:16)

☆神戸のユダヤ人コミュニティを訪問、歴史をたどる☆



私は、9月に神戸の日本最古の関西ユダヤ教団のシナゴグと神戸ユダヤ共同体、**ジューコム**の跡地を訪問しました。私の訪問を喜んで迎えてくれました。



外国人の多い港町神戸には、1912年ごろ既に、ユダヤ人コミュニティが形成され、シナゴグ(ユダヤ教会堂)が設立されました。「関西ユダヤ教団」のラビのシムエル・ヴィシエドスキー師は、ニューヨーク出身、イスラエルで学び、2014年に来日。ヴィシエドスキー師の祖母リブカさんは、ホロコースト(ユダヤ人大量虐殺)で家族を殺されたそうです。リブカさんは1941年、ソ連のレニングラード(現サンクトペテルブルク)で、兄の家族と暮らしていました。同年6月、ナチス・ドイツ軍がソ連に侵攻。レニングラードは包囲され、解放までに飢えや寒さで命を落とした人は、約100万人ともいわれています。リブカさんの兄は飢餓作戦の犠牲となったそうです。リブカさんたちが逃れた故郷の小さな村も、ナチスが『特別行動部隊』を設置していたそうです。特別行動部隊(アインザッツグループ)は、前線後方の占領地域でユダヤ人や共産党員ら「敵性分子」を銃殺する任務を負って、組織されました。村のユダヤ人は大きな穴を掘らされ、その穴は銃殺されたユダヤ人の死体で埋め尽くされました。リブカさんは、両親と7人兄弟の家族でしたが、生き延びることができたのは、リブカさんともう一人だけだったそうです。



ロシアでのボグロムや、日露戦争、また、東京での大震災の影響もあり、日本のユダヤ人社会は、神戸に集まるようになり、アシュケナジー系(欧米系)のユダヤ人たちが、おもに、アメリカのユダヤ人社会の支援を受けながら、**神戸ユダヤ共同体、ジューコム**を作り上げました。



旧神戸ユダヤ共同体は、ホロコースト時代(1933-1945年)、リトアニアで杉原千畝から「命のビザ」をもらい、はるばる日本に辿りついたユダヤ難民が、その数約4500人から5000人と言われています。ユダヤ難民たちは、1940年7月ごろから到着しはじめ、第3国が決まった人たちは、神戸から出発して第3国へ(当時のユダヤ人とジューコム)渡ったそうです。1940年7月末、太平洋戦争が緊迫してくると、神戸にいたユダヤ人のほとんどは、上海へ送られました。約400人が、上海からフィリピン、インド、エジプトを経由して、今のイスラエルの地に辿り着いたのです。私は、旧神戸ユダヤ共同体の歴史を知り、主に感謝しました。

☆淡路島へ☆



私は、神戸から淡路島の洲本へ行きました。そして、淡路古茂江古代ユダヤ遺跡を訪問しました。この古代ユダヤ遺跡は、森重吉氏の不可解な急死によって始まりました。淡路島洲本の小路谷(オロダニ)で四州園という旅館を営業していた森重吉氏は、旅館の湯殿を建てるために整地していたところ、遺跡を発掘し、その夜、うめき声をあげながら急死しました。昭和9年9月、享年47歳。さらに、一連夜の日、室戸台風が襲来し、旅館まで大被害を受けたのです。人々は、崇りと恐れ、その遺跡を埋め戻してしまいました。昭和27年、白山義高氏は、この遺跡がイスラエル人の遺跡であるとの自説を発表。昭和27年10月14日、再び発掘されました。当時、米軍に同行していたイスラエルのローゼン大司教や日本イスラエル協会長小林孝一らが立会う大規模なものだったそうです。

現在は、「淡路夢泉景」ホテルの庭に人知れずあり、私は、特別に案内して頂きました。そして翌日、淡路菰江古代ユダヤ遺跡奉賛会の魚谷佳代会長にお会いしました。私一人のために特別に紫苑(シオン)の山を案内して頂きました。

大変貴重なお話と体験ができて素晴らしい時を過ごさせて頂きました。魚谷佳代会長に感謝致します。聖書ヘブライ語研究家の藤森三千雄師ともお会いできて本当に嬉しかったです。神様に心から感謝致します。

☆テレジンもう蝶々はいないコンサート☆



去る9月11日、「テレジンもう蝶々はいない」コンサートに行ってきました。32年間、テレジンの子どもの絵の話を伝え続けている野村路子さんの講演会と川越のひまわり保育園の子どもの歌もある素晴らしい感動のコンサートでした。ウェスタ川越大ホールがほぼ満席に近い程、多くの観客でした。

在日ユダヤ人のダニーさんは、テレジン収容所で凍死した母方の祖父のことを思い出しながらコンサートを見ていたそうです。テレジン収容所の15,000人の子どもたちのうち生き残ったのはわずか100人でした。私は、テレジンの子どものたちと、いじめや虐待などで幼い命が奪われている子どもたち、そして戦時下の中にいる子どもたちが重なりました。子どもたちの命を奪う大人がいる一方で子どもたちの笑顔のために命がけで立ち上がる大人もいるのです。愛と平和をお祈り致します。

☆アート・ミニストリーよりお知らせ☆



☆ 2022年11月22日(火)~28日(月)「アンデパンダン小品展」

会場:万国橋ギャラリー(みなとみらい線「馬車道駅」6番出口)

☆ 2023年2月22日(火)~2月27日(月)「猫んちえと展 2023」

会場:エリスマン邸(みなとみらい線「元町・中華街」駅6番出口)

☆ 2023年3月28日(火)~4月3日(月)

「第11回横浜開港アンデパンダン展」

会場:横浜市民ギャラリー(JR根岸線「桜木町駅」)

☆ ハバッドジャパンのラビ・メンディ・スタケヴィッチ師に「麦は歌う」と、ヘブ

ライ語のメッセージ入りの蒔絵(宮元美千子氏作)をエターナル・ラブ・イスラエルから贈呈しました。ラビ・メンディ師はとても喜んでくださいました。皆さまにご報告させて頂きます。

☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



- ☆ 神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、イスラエルの平和が守られ、神様の計画と御心が成りますように。
- ☆ ユダヤ人がイスラエルに帰還することが出来ますように。
- ☆ 11月1日に行われたイスラエル総選挙で右派のネタニヤフ氏が再び勝利しました。イスラエルの国政、国内情勢のためにお祈りください。
- ☆ 世界情勢が激しく動く中、世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、政治を進める事が出来ますように。

- ☆ 世界中で起きている戦争、紛争、軍事侵攻、テロ、あらゆる対立などがなくなり、平和となりますように。
- ☆ 日本とイスラエルの関係があらゆる分野で発展し更に良い外交関係を築くことが出来ますように。
- ☆ 新型コロナウイルスの感染拡大が世界中から一刻も早く終息しますように。多くの方の生命と健康が守られますように。長引くコロナ禍での不況と不安など殺伐とした中で、救いに導かれる方が起こされますように。
- ☆ クリスチャンがユダヤ人迫害をした歴史があります。ユダヤ人とクリスチャンが和解できますように。
- ☆ メシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエル国内で大胆に伝道できますように。
- ☆ 一人でも多くのユダヤ人がこの日本で、イエス・キリストに出会い救われますように。
- ☆ 日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈り、愛をもって伝道が出来ますように。エターナル・ラブ・イスラエルの働きのために。
- ☆ 主のご再臨のために。イスラエルの回復と救いのために。日本のリバイバルのために。

☆ 2022年 冬のユダヤの祭り ☆



☆ 12月18日~26日 ハヌカの祭り (宮潔めの祭り、奉献の祭り)

ハヌカは、ヘブライ語で「奉納」「献堂」という意味です。

ハヌカの祭りは、ユダヤ暦キスレブ月の25日から8日間祝われます。

ハヌカの祭りの起源と由来は、セレウコス朝(312-164 B.C.)時代に遡ります。シリアを支配するギリシャ軍がエルサレムの神殿を占拠しました。しかし、164 B.C.ユダ・マカビーたち指導者のもと、ユダヤ民族は勝利し聖地エルサレムを奪還、神殿を再び奉献することが出来ました。

ハヌカは、たとえ少人数であっても信仰を持って戦い、エルサレムを奪還して神殿を再び奉献した事の奇跡を記念した祭日です。奪還した神殿には、神聖な油壺が一つ大祭司の封印のまま見つかりました。油は、わずか1日分にも満たなかったのですが、なんと8日間も燃え続けたのです。

ハヌカは別名、「光の祭り」とも呼ばれます。ハヌカには、7枝のメノラーではなく、8枝ともう1枝の蠟燭を灯す枝の9枝の燭台(ハヌキヤ)に、1日ごとに1本ずつ増やして点火していき、8日目に全部が点るようになります。点火用のろうそくは、「シャマシュ」という呼び名がついています。灯りは「希望」と「献身」を象徴しています。一晩ごとに蠟燭の灯りをともしながら、祖先から受け継がれてきたように、ユダヤ民族の未来の世代のために、伝統を持続させることに自身を捧げる意味がこめられています。

*この働きは自由献金で賄われています。自由献金を払込の際には同封の払込用紙をお使いいただけます。

2022年12月 冬号発行(季刊誌)